# この人のセンスに注目！ NO.16

取材・文／井口啓子　大写真／武藤育子

美術コレクター道マッシグラー!?の大宅さん、これは友人である原田チカコさんの写真版画で、特殊な技法を用いた作品。バチャママには若手アーティストも数多く出入りする。「エセ・フルクサスと呼んで(笑)」。

バチャママのスタッフでもある浅野千里さんの作品。オブジェは最新作、絵は幼稚園の頃の傑作だ。ロウファイ感漂う無邪気な暴力性がお気に入り。「個人的にすごいと思う、スーパーボール同様、新世代の感覚」とミノルさん。

しゃがれ声の酔いどれピアニスト、トム・ウェイツは大好きなミュージシャンの一人。「トム・ウェイツは全部レコードで持ってる」と嬉しそう。バチャママでかかるスタンダードB.G.M.のひとつでもある。

## IN POCKET

いつも持ち歩いてるものシリーズ。ダイバーは昔のSEIKOで、探していてやっと見つけた愛用品だ。よく天神さんや古道具屋を利用する。実はこれら使用目的は特になく、歯車やメカの質感が好きで携帯しているらしい。

最近読んでハマった「ロベルト・ヴァルザーの小さな世界」。彼自身がメモ帳に自作文字で綴った散文を解読したもの。「一見意味のない散文なのに、実はすごい真理が記されてる。チラッと読んではオオッ！」と。

「ずっと欲しくて頂戴、頂戴て言ってて、今日の撮影にかこつけてやっと買った」というTシャツは、ローキックというバンドのオリジナル。「シンプルで難しくなくて、作った人の人間性が出てるものが好き」。

**PROFILE**

バチャママ店長

**大宅ミノル**さん（29歳）

昭和レトロなオモチャがあることで有名なカフェ・バチャママの店長。今は無きシティライトや四条のウサギなど店長業!?はお盛ん。またバンド活動にも熱心。そんなパワフルさとは裏腹に仙人のごとく飄々とした風貌の彼さん、実はヤマタカEYE似(笑)。

MY FAVORITE THINGS

## 毒でもって笑いを制す!? 奥深きパロディの美学

オモチャ好きの一方で「小6の時たまたまRCのライヴに行って。キヨシローを観て、こんなカッコイイ人がいるのかとショックを受けた」というオマセな音楽フリークでもある大宅さん。京都にNWの風が吹きあれた中高生期にはライヴハウスに通い、「ファッション・ミュージック・イデオロギー」てな感じでディランやジャックス、村八分、町蔵を愛聴。「笑い系でもシリアス系でも、常にユーモアとアイロニーが背中合わせであるような。表現としてパロディ的でちゃんと毒のあるものが好き。だからゲンズブールも凄く好き」。80年代世代らしく知的センスに裏打ちされた、ヒネくれたバカバカしさをこよなく愛する彼。その美学!?に惹かれ、彼の周りには今日も一筋縄でない強者達が集う。

実は京都の音楽シーン（ひとこや）で秘かに活動するバンドマンの彼。現在「OKミュージックボール」や「フックダウンズ」にギターで参加。これはいつも愛用のセミアコースティックギターと買い物のバイオリン。

今や大宅さんのホームベースとも言える、バチャママ（新京極三条下ル／筋目西入ル／075・241・1330）にて。やはりカウンターの中が似合う人だ。今日のポイントはアーティストの山本晋也さん制作のTシャツ。シラク大統領～なる、マンなのかギャグなのかからんメッセージセンスが妙にハマってます。